

# 本学名誉教授、教授が数々の名誉ある賞を受賞

**内海英雄名誉教授が、  
平成23年秋の  
紫綬褒章を受章**



内海名誉教授は、東京大学大学院薬学系研究科博士課程を修了後、帝京大学薬学部講師、昭和大学教授等を経て、平成6年に本学薬学部教授に就任し、平成22年3月まで、本学において教育・研究・管理運営に携わってこられました。現在は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構の理事・審査センター長として審査の業務に携わりながら、本学において、先端融合医療レドックスナビ研究拠点長を務めておられます。生体磁気共

鳴画像学を専攻分野とし、国内初の生体レドックス動態計測・画像化装置を開発しました。また、単独の研究室で造影開発と疾患解析も同時並行で進めるといふ世界初の取り組みにより、独創的かつ斬新な生体レドックス解析法を確立し、我が国の生体レドックス研究を飛躍的に発展させました。このように、基礎薬学研究から臨床医学研究への展開に至るまで、卓越した業績を挙げ、卓越した先見性によつて学術研究と教育の発展に大きな貢献をなしてきたことが評価されたものです。

**國武豊喜名誉教授、  
平成23年秋の  
瑞宝重光章を受章**

國武名誉教授は、長年にわたり本学工学部において高分子化学ならびに分子組織化学の研究教育に努められ、その間、高分子触媒の開発、合成



二分子膜の発見や分子膜化学の展開をはじめとする、数多くの優れた業績を残されました。また、工学部長を務められるなど、大学の管理運営においても多大な貢献をされました。現在は、財団法人北九州産業学術推進機構理事長として活躍中です。

**応用力学研究所の  
藤澤彰英教授が、  
2011年度  
仁科記念賞を受賞**

仁科記念賞の授賞は、著名な物理学者であった仁科芳雄博士の功績を記念し、原子物理学とその応用に関して優れ

た研究業績を挙げた若手研究者を表彰することを目的として行われている大変権威のあるものです。

九州大学からは、過去に伊藤早苗主幹教授（応用力学研究所）、井上研三教授（理学研究院）などが受賞しています。今回の受賞の対象となった研究業績は、「高温プラズマにおける自発電磁場の実験的検証」です。



ノーベル賞受賞者の小柴昌俊博士、小林誠博士も出席した贈呈式での記念撮影（前列左から3人目が藤澤教授）平成23年12月6日（火）東京会館にて